

# 来週の「売り物記事」はこれ



2017年7月7日号

毎日新聞東京本社 編集部・販促宣伝部

## 沖縄・伊江島ルポ 「基地闘争の原点」はいま

9日(日)



沖縄本島北部の離島・伊江島は1950年代に米軍が基地建設のため「銃剣とブルドーザー」で土地を接収した際、島を上げて抵抗し「基地闘争の原点の島」と言われます。しかし今も基地は残り、多くの村民は基地容認に回りました。「沖縄のガンジー」と称された基地闘争のリーダー、阿波根昌鴻(あはごんしょうこう)さん(2002年死去)も晩年は「村八分」と状態になっていたといえます。阿波根さんを長年支えた謝花(じゃはな)悦子さん(78)らへの取材を通して、島の苦難の歴史と葛藤に迫ります。

執筆者は西部報道部・川上珠実記者です。



## 森田正光さんと間近で「観戦」

### 驚異の14歳・藤井四段の真剣勝負

夕刊特集ワイド 11日(火)



将棋界の新星に、日本中が魅せられています。プロデビューから前人未到の29連勝を果たした藤井聡太四段=写真。盤上での強さはもちろん、14歳とは思えない礼儀正しさや落ち着いた物腰も人気の理由です。これほどのブーム、テレビの画面越しに感じるだけではつまらない! 藤井四段が真剣勝負をする対局室やその周辺では、何が起きているのか。大の将棋ファンのお天気キャスター、森田正光さんと一緒に見に行きました。

## 子供が吃音だったら

くらしナビA面 13日(木)

言葉に詰まったり、どもったりする吃音(きつおん)は幼少期に発症するケースが多くあります。しかし、保護者はどう接してよいのか分からず、子供だけでなく保護者自身も不安に陥ることがあります。専門家は「話を最後まで聞く」など3種類の対応を勧めています。また、からかわれたり、嫌な思いをしたりしないよう周囲の理解も重要だと指摘しています。



## ハマりました 銅像案内人

くらしナビB面 12日(水)



戦国武将、維新の志士、平安の女性歌人……。会社員の遠藤寛之さん(43)は全国の銅像を巡り、ホームページで紹介する「銅像案内人」。ファンからの情報提供もあり、4200体もの銅像が掲載されています。「偉人と時空を超えて対面する高揚感がたまりません」と話します。そんな遠藤さんに全国の男前像と美人な銅像を5体ずつ選んでももらいました。

## my way 東ちづるさん おんなのしんぶん 10日(月)

今回生き方を語ってくれるのは、女優の東ちづるさん＝写真。大学受験に失敗し、母親から責められ、自分が自分である感覚がなくなる「解離性障害」に。就職先の企業では男性優位の理不尽さで退職。結婚後は夫が難病に冒されます。けれども、「自分の心が喜ぶことを見つけたい」と人生を切り開きます。芸能活動やライフワークとするボランティアで活躍しています。



## 「ドクター元ちゃん」がんで逝く 医療・福祉面 9日(日)



自らのがん闘病をつづったコラム「ドクター元ちゃんがんになる」の筆者で、5月31日に58歳で死去した西村元一・金沢赤十字病院副院長＝写真＝の生前最後となったコラムを掲載します。合わせて西村さんが「ラストワーク」として開設に力を注いだ、がん患者のための居場所「元ちゃんハウス」について、西村さんの思いとともに遺志を継いだ仲間の思いを紹介します。

## 「真夏の球宴」開幕 第88回都市対抗野球大会

スポーツ面など 14日(金)～25日(火)

「第88回都市対抗野球大会」(毎日新聞社、日本野球連盟主催)が14日、東京ドームで開幕します。前回大会で悲願の初優勝を果たし史上6チーム目の連覇がかかる豊田市・トヨタ自動車をはじめ、創部100周年を迎えた日立市・日立製作所、厚い選手層を誇る横浜市・三菱日立パワーシステムズ、投手陣が充実した京都市・日本新薬など、全国から集まる強豪32チームが栄光の優勝旗「黒獅子旗」を目指して熱戦を繰り広げます。「真夏の球宴」の興奮を密着取材でお届けします。



## 毎日ユニバーサル委員会 第2回座談会 特集面 15日(土)



2020年東京五輪・パラリンピックを控え、毎日新聞社が進めるバリアーゼロ社会実現キャンペーン「ともに2020」などに提言をしてもらう「毎日ユニバーサル委員会」の第2回座談会が開かれました。テーマは「障害者の競技場アクセシビリティ(利用しやすさ)」。東洋大ライフデザイン学部教授の川内美彦委員が障害者向けの観客席を巡り問題提起します。